



# 2021年 第1回 レビー小体型認知症サポートネットワーク京都 活動報告書

日時：2021年1月30日 13:30～16:00

内容：医師の講話と相談交流会

参加者：20名

本来は、会場とリモートの併用で開催予定でしたが、緊急事態宣言が発出された事を受けて、リモートのみでの開催となりました。ご本人・家族介護者から電話で交流会の問い合わせを戴きましたが、リモート参加はハードルが高く、参加戴けない方もいらっしゃいました。現時点では、今後も対面交流会のみで開催できる見通しが見つからないことから、リモート参加のサポート体制を検討しています。今回はケア専門職の参加者が多かったことから、専門職向けとして、交流会と並行して顧問医：水野先生に「レビー小体型認知症の総論」の講話をお願いしました。

## ■講話：テーマ「無理難題と感じる事から始めよう」（全体での講話）

講師：協力医：辻医院 院長 辻輝之先生

・今回はスピーチ原稿のような資料を画面で見ながら、認知症の方・家族介護者に接して「なんでこうなるんやろう」という純粋な疑問、認知症の「2つのなんで How Why」の歴史を振り返る事から始まりました。そして、対応を難しくしている DLB の特徴について疾患の定義から学びました。最後に※志寒浩二氏のサイトからハッピーな認知症ケアのための「七つの原則」の紹介がありました。※認知症対応型共同生活介護身にケアホームきみさんち 管理者・介護福祉士・介護支援専門員

## ■講話：テーマ「レビー小体型認知症の診断・治療」（専門職向け講話）

講師：顧問医：府立医科大学 水野敏樹先生

・今回は交流会に初参加の専門職が多く、レビー小体型認知症の総論の講義を交流会と並行して実施。専門職として DLB 患者さんを担当した経験のある方が殆どだったこともあり、総論の講義は振り返りにつながったのではないかと思います。

また、講話後 6 人グループに分かれて其々に顧問医：水野先生と協力医：成本先生に入って戴き質疑応答を行いました。

## ■参加者の声

### 【よかった点】

・専門職でも、DLB の知識が薄い方が時々おられ、対応方法に首をかしげることもある。専門医の先生方からの生のレクチャーや、介護家族の声を聞く貴重な場となっていると思う。・専門医からの話が医療色が濃すぎず解りやすかった。グループワーク時にもそれぞれの質問に資料を用いるなどもしてくださり回答を頂けたことはとてもよかった。・新型コロナウイルス感染症の拡大により、医療機関に所属する者として、非常に厳しい行動制限が課せられている。これまで気軽に参加できていた研修会や交流会を断念せざるを得ない中で、このようにオンラインで開催していただくと大変助かる。・遠方からでも参加できるのが有難い。

### 【よくなかった点】

・対面とちがいで双方向での議論はやりづらいうように感じた。通信機器や環境により、声の大きさなどが変わり、音量の調整が難しかった。実際の対面での研修と比べて、臨場感などは物足りなく感じた。・オンラインが不得手な方にはハードルが高いと感じられるのかもしれない。・不慣れなので疲れた。

### 【感想】

・レビー小体型認知症は気づきも難しく、正しい知識が必要に感じた。ただ、他の認知症の方と同じように寄り添う姿勢、相手の立場に立って物事を考えるということは変わらないと感じた。ただ、正しい知識がないとうまくケアができないので、他の認知症への理解を深めるとともに、レビー小体型認知症は個人差が大きいということだったので、個別での対応を考えていきたい。・先生に質問できたり家族の方々の悩みも聞けて良かった。